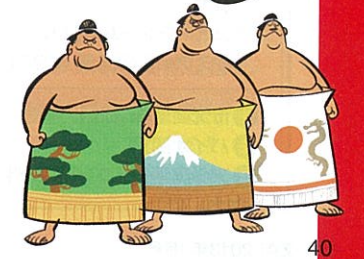


スター銘柄の登場で  
**小型株**  
いよいよ復活?

# マザーズ指数は30%超上昇し 5〜6倍になる銘柄も!

ライブドア・ショック以降、日本の小型株は長期低迷状態にある。だが、昨年はバイオやスマホ関連で、株価が何倍にもなる銘柄が登場。直近はIPO銘柄も順調な滑り出しを見せている。13年は、小型株が本格復活する1年となるのか?!



## 2013年 小型株はこの決まり手に注目!



### 1 不動産流動化

大きく下げただけに5~10倍も狙える!

金融緩和や景気対策を追い風に、不動産市場もようやく下げ止まり。不動産流動化ビジネスが再び活発化し、右のケネディクスのように5倍、10倍銘柄が続出した05年頃の盛り上がりの再来に期待も高まっている。

### 3 信用取引の規制緩和

出来高が増えて市場が活性化!

取引が活発化!

信用取引でデイトレード  
証拠金は翌日まで拘束

1月4日から信用取引のルールが変更。同じ証拠金で同日に何度も回転売買が可能となるため、売買が活発化するはず。

13年1月以降  
同じ保証金で同日から何度も取引可能に!

### 2 IPO

市場を牽引するIPO銘柄が登場!

初値から飛ばすIPO銘柄が登場!

12年後半の主なIPO銘柄

銘柄	公募→初値
ユーグレナ	+129%
モバイルクリエイト	+133%
エニグモ	+130%
トレンダーズ	+155%

12年後半は久しぶりにIPO銘柄から大化け株が続出。今年もバイオやスマホなどの分野からスター銘柄が登場へ。



業績の変化から初動を狙い撃ち! IPO分析の第一人者

**マザーズ指数500越えは十分にありうる水準**

中村孝也さん  
マザーズ指数予測  
高値 550ポイント(12月)

小型株の盛り上がりは年明け以降も持続する!

12年後半は小型株が健闘しました。年が明けてもその傾向は続きそうですか?

小川 まだ大型株が上がっていない夏頃も、個人投資家を中心に小型株市場は盛り上がりつつあり、売買代金も膨らんできました。

中村 小型株の場合、年末が好調だと年明け以降も上昇が続くやすいという特性がある。

小川 1月4日から信用取引の規制が緩和されて回転売買が可能になったことは朗報です。今のところ東証マザーズ指数の上値のメドは450~500ポイント

中村 さすがに08年の600ポイント超えは難しいが、550ポイント近くまではありうる水準じゃないかな?

中村 昨年と想定していますが、信用取引の売買が膨らんでいけば、もう一段上への上昇も見込めます。

中村 さすがに08年の600ポイント超えは難しいが、550ポイント近くまではありうる水準じゃないかな?

中村 昨年と想定していますが、信用取引の売買が膨らんでいけば、もう一段上への上昇も見込めます。

中村 私は、指数よりも個別銘柄の動きに注目しています。指数がイマイチのときも、個別では目立った動きをする銘柄があるのが新興市場の魅力です。

中村 東証マザーズにIPOした銘柄にも、公募価格を大きく上回る初値をつけた後に続伸す

中村 昨年と想定していますが、信用取引の売買が膨らんでいけば、もう一段上への上昇も見込めます。

中村 私は、指数よりも個別銘柄の動きに注目しています。指数がイマイチのときも、個別では目立った動きをする銘柄があるのが新興市場の魅力です。

中村 東証マザーズにIPOした銘柄にも、公募価格を大きく上回る初値をつけた後に続伸す

地味なセクターの割安遅れ株に注目!

円安でも自動車部品はまだ物色されていない!

浜崎美保さん  
マザーズ指数予測  
高値 500ポイント(12月)

るものがかかりました。

小川 上場後に業績を上方修正する会社もありましたし、ホントに12年のIPOは久々に盛り上がりました。今年は昨年を上回る50~60社が上場するのではないのでしょうか?

浜崎 ミドリムシでジェット燃料を創り出すことを研究しているユーグレナなんて、初値が公募価格の2倍以上で、そこからさらに倍になりました。今年もバイオの分野でIPOする会社が相次ぎそうな気配です。

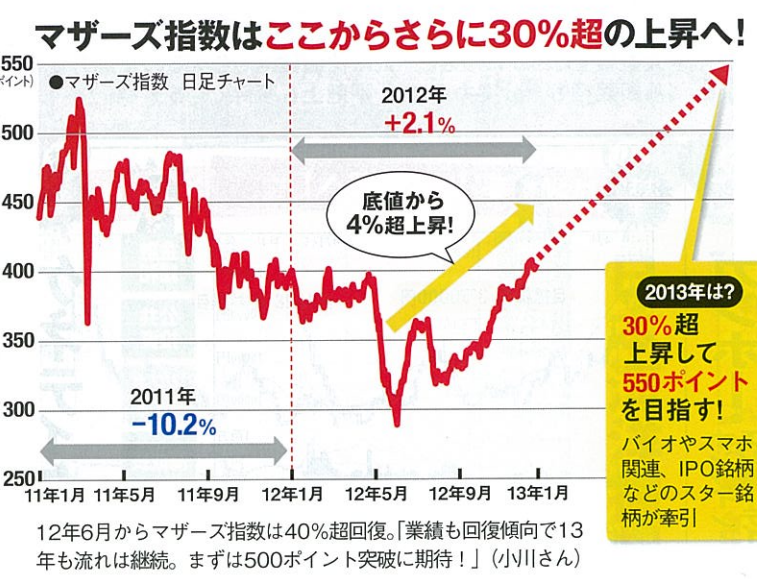
中村 もちろん、スマホ&タブレットPC関連の中からも大化けIPO銘柄が出てくるはず。個別に見れば、やっぱり小型株の中でも圧倒的にパフォーマンスがよかったのは新興市場だった。昨年ではなく11年の上場組だけ、スリー・ディー・マトリックスがその典型例だ。

小川 リクルイトに東京メトロ、西武HDといった具



信用取引の規制緩和で  
売買の活性化に期待!

小川佳紀さん  
マザーズ指数予測  
高値 500ポイント(12月)



や不動産関連が5~10倍ととても大きく上昇しました。リーマンショック以降、不動産流動化関連は倒産や株価暴落など修羅場を迎えましたが、ケネディクスのように生き残った企業が、大復活を遂げそうな気がします。

中村 不動産の流動化もそうだが、今年は間違いなく公共投資が増える。政策の後押しもあり、ジェネリック医薬品の普及も本格化してくるはず。

浜崎 ここ数年で株価が30倍以

それほど物色されていません。

中村 確かに。萩原工業など、自動車部品を手掛けている小型株はまだ目立った動きをしていない。

個人投資家はどのようなスタンスで今年の相場に臨むべきでしょうか?

小川 とかく個人投資家は逆バリエを好みますが、上がっている銘柄を追いかけたほうがいいと思います。特に小型株はトレンドが出やすいのが特徴ですから、



フィスコの新興市場分析チーム。左から小川佳紀さん、中村孝也さん、浜崎美保さん。特にIPO関連のデータ分析には定評がある。

浜崎 割安な水準に放置され続けている銘柄も少なくありませんから、逆張りには難しいです。

中村 調べてみると、上がっている銘柄には必ずそれなりの理由がある。特に株価が急騰するのは、不振だった企業が業績の回復を理由に買われるケース。底値から7~8倍になる可能性も大。こうした業績の変化を四半期ごとにチェックすれば、上昇の初動をキャッチできるはず。